

もっと知ろう！もっと考えよう！ 難民のこと

～同じ時代、同じ地球に生まれたんだから～

RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）著

もっと知ろう！
もっと考えよう！
難民のこと

同じ時代、同じ地球に
生まれたんだから

RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）

B5版76ページ
オールカラー

目次

- I 難民を取り巻く世界
- II 「難民鎖国」につぼん
- III 日本で難民認定されるまでの、遠い道のり
- IV 日本での難民の暮らし

支援金1,000円以上でお分けしています
(すべて在日難民支援に使われます)。
イベントでのRAFIQ出店ブース、「OSAKA
なんみんハウス」に直接お越しいただくか、
rafiqtomodati@yahoo.co.jpまでご連絡
ください(郵送可・送料一律500円)。

RAFIQ
ホームページ



<http://rafiq.jp/>

日本に難民って逃げてきているの？

日本の難民認定制度はどうなっているの？

日本で難民は毎日どんな生活をしているの…？

ニュースでみる海外の難民は、徒歩やゴムボートなどで国境を越え他国へ逃げますが、日本に来る難民はほとんどが飛行機でやってきます。国際条約である「難民条約」に加盟している日本は、難民を保護する義務がありますが、日本の難民認定数は毎年ほぼ0%に近く、難民を受け入れていないのが現状です。空港でそのまま入管に長期収容されてしまう人もいれば、私たちのすぐ隣で生活している人もいます。

日本の難民受入れの歴史、難民認定制度の変遷と問題点、日本で暮らす難民が日々直面する困難などについて、長年在日難民を直接支援してきたRAFIQが、その支援経験のすべてをこの一冊に織り込みました。これから難民支援をしてみたい人、難民・移民・人権問題・多文化共生に関心のある教職員や高校生以上の教材としても利用できます。

命からがら迫害から逃れてきた難民に「日本に逃げてこなければよかった」と言わせてしまう私たちの国。どうしたら難民が日本で同じ「人間」として尊重され、安心して暮らすことができるのか、同じ地球に生まれ、同じ時を過ごしている、同じ「ひと」として、一緒に考えてみませんか？

推薦します！

大阪女学院大学教授 馬淵 仁

本書は、類書の中でも出色の出版物である。まず、内容構成がよい。「難民を取り巻く世界」、「難民鎖国」につぼん、「日本で難民認定されるまでの、遠い道のり」、「日本での難民の暮らし」の四部構成で、各部の丁寧な説明も相まって、世界における日本の難民問題について、全体像が的確に把握できる仕組みになっている。次に、限られた頁数にも拘らず、多岐にわたった正確な最新情報に基づいて書かれているので、読者は難民の現状について様々な角度から深く学ぶことができる。また、表・イラスト・写真・コラムなどが随所

に、適切に掲載されており、この問題と初めて接する読者にもたいへん読みやすい。読み進めると、筆者と編者のこの問題への思いが、私たちへの切実なメッセージとして伝わってくる。

敢えて注文をつけるとすれば、この大きな課題にどう取り組めば現状を少しでも変えることにつながるのかという、ストラテジーに関しての記述が欲しかった。だが、それは巻末に用意された有用な資料を用いて取り組むべき、読者ひとりひとりに託された課題なのかもしれない。国内外での問題が山積して押し寄せる今の時代にこそ、本書が一人でも多くの人々の手にわたることを、心から願っている。